

修士課程日本音楽研究専攻は、当センターの環境の中で日本音楽について専門的に学ぶことができるコースとして2013年度に開設し、2017年度で5年目を迎えました。現在(2017年度)、6人の院生、3人の研究留学生が在籍しています。学生の研究の対象は、真言声明、新内節、稚児舞、雅楽、祇園囃子、明清楽など多様です。

先行研究論文の読解、論文の書き方など基礎的能力から、五線採譜や五線訳譜の方法など論証に必要なより高度な能力を、日々の演習授業やインターンシップ活動、フィールドワーク等を通じて培っています。また、伝音セミナーや公開講座など伝音センター各種催しに企画・講師・パネリストとして携わることで、研究だけでなくその成果を一般市民に還元する方法を学んでいます。



石松囃子保存会常磐会インタビュー (静岡県森町)



第49回公開講座にて発表



題目立インタビュー (奈良市上深川町)



演習授業風景 (伝音セミナーのリハーサル) 1



演習授業風景 (伝音セミナーのリハーサル) 2



伝音セミナー終了後のピザパーティー

日本伝統音楽研究センターが国際日本文化研究センターとの間で、学術交流・協力に関する基本協定書を締結しました。

日本伝統音楽研究センター（以下「伝音センター」）では、これまでから大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国際日本文化研究センター（以下「日文研」）との間で、研究・教育活動に関して交流を重ねてきましたが、この度、両者間の協力関係をより確かなものとするために「学術交流・協力に関する基本協定書」を交わすことになりました。

協定書の調印式は、2017年9月8日（金曜日）に本学にて行われ、小松和彦日文研所長と時田アリソン伝音センター所長が協定書の調印に臨みました。

今後、両機関では、共同研究会の開催をはじめ、研究・教育活動全般における学術交流・協力を一層推進していきます。

